学生調査について

－学生から見た各大学の教育の姿を可視化する大規模調査は**初の試み**－

概要

- 国が全国共通項目で、学びの主体である**学生目線**から大学教育や学びに関する調査を実施。
- 全大学の**学部生対象**に、**在学中の学び**の実態、**身に付けた力**、**学習経験**などについて網羅的に状況を把握。
- 大学が自ら教育改革に取り組み、**社会が理解しやすいような形で公表**し、学生の声を大学進学を目指す若者に届ける。

背景

- 大学教育に対する国民の満足度は低い（日本の学生は勉強していない、大学は学生を育てていない等）。
- **学生がどのような能力を身に付けているかについて、社会に対する説明や情報公表が不十分**。
- 特に、18歳人口が減少する中、学修者本位の教育への転換が一層問われるが、各大学が学びの主体である**学生目線からの学びの状況を把握し、社会に対する発信が課題**。

目的

- 全国的な学生調査により、**学修の主体である学生の目線から大学の教育力の発揮の実態**を把握。
- 大学進学希望者など社会が理解しやすいよう、**調査結果を原則大学・学部毎に公表**。
- 調査結果を踏まえ**各大学が自ら教育改善**を行う。
- 学生の目線から大学教育の実態を把握することで、国における**今後の政策立案の際のエビデンスとしても活用**。

学生調査（実施イメージ）

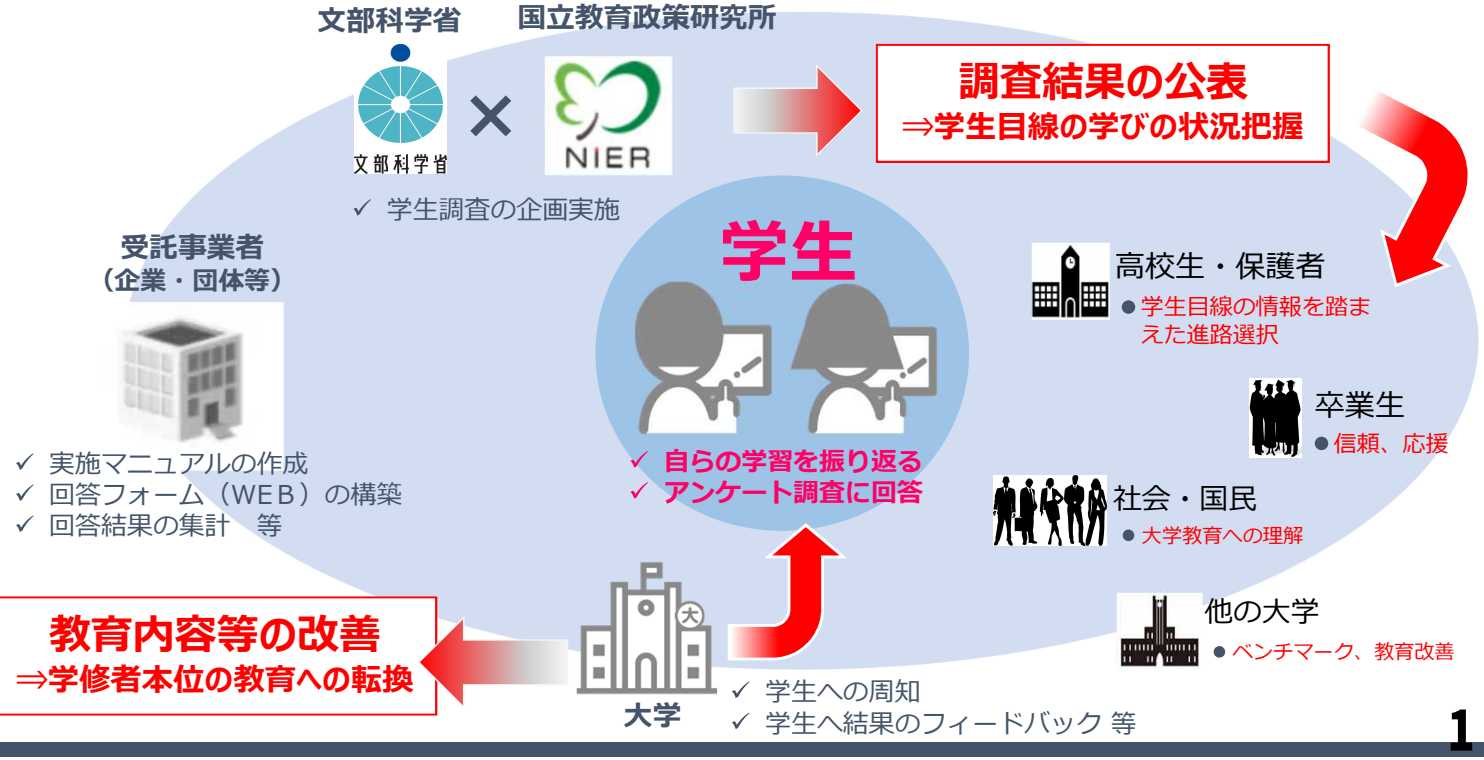
【調査対象】
- 学部3年生（6年課程は4年生）

【調査方法】
- Web（スマホ等）によるアンケート調査

【調査項目(大問５問：10分程度で回答可)】
- 大学での授業や経験
- 学習時間
- 大学で受けた授業形態
- 大学教育で身に付けた知識や能力

【調査結果】
- 原則、大学・学部ごとの集計結果を公表
- 学生には調査結果をフィードバック

※令和元年度は一部の大学を対象に試行調査を実施



学生調査の設計（案）について

調査趣旨・目的

（検討の背景）

○近年、大学における教育の質保証や情報公表が課題としてあげられ、各大学にどのような強みや特色があるか、どのような学修成果を上げているかについて、社会に対する説明や情報公表が不十分であるとの指摘がなされている。

○「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」（平成 30 年 11 月 26 日中央教育審議会）においては、学修者本位の教育へ転換を図るとともに、各大学が教育成果や教学に係る取組状況等の大学教育の質に関する情報を把握・公表していくことの重要性を指摘する一方、社会が理解しやすいよう、国は、全国的な学生調査や大学調査を通じて整理し、比較できるよう一覧化して公表すべきと提言された。

（学生調査の性格と現状）

○学修成果の測定方法は「直接評価」と「間接評価」に分けることができるが、学生調査は「間接評価」に分類され、学生の期待度や満足度、学習行動の把握、関与や経験を把握することができ、成果につながる教育の過程を評価する「プロセス評価」という機能を伴っている。

○海外の状況に目を向けてみると、National Student Survey(NSS：イギリス政府機関)や National Survey of Student Engagement(NSSE：アメリカ大学研究機関)、Cooperative Institutional Research Program(CIRP：アメリカ大学研究機関)に代表されるような大規模な学生調査が実施されており、学生の学修等の状況を把握するとともに、得られたデータをエビデンスデータとしてアクレディテーションに利用することや、教育内容の改善などに活用することが一般的に行われている。

○この点、我が国においては、近年のＩＲ（Institutional Research）活動の拡大により、各大学個々による取組は行われているものの、未だ全国的な広がりはなく、国においては、国立教育政策研究所が学習状況に関する調査を実施しているが、全大学を対象とするものでなく、大学教育に関して、学修の主体である学生目線からの網羅的な状況は把握されていない。

（国が実施する学生調査の目的）

○これまでも各大学等において、独自の学生調査が実施されているところだが、調査目的、実施方法等については多種多様であり、社会が理解しやすいよう調査結果を示すことや、各大学が調査結果からベンチマークを行い、教育内容等の改善につなげることが難しい状況となっている。

○真に学修者本位の教育への転換を目指し、国においても学修の主体である学生の目線から大学教育の実態を把握し政策立案への活用を検討するとともに、大学教育の取組や評価の可視化や全国共通の調査項目で実施することでベンチマークを可能とすることにより、今後大学に進学する者等への情報公表及び各大学における教育内容等の改善を促進させることを目的として実施する。

調査結果の取扱い

○今後大学に進学する者を始めとした広く社会への情報公表のため、全体の調査結果とともに、原則大学・学部ごとの集計結果（回答数・回答率を含む）を公表する。将来的には、大学ポートレートの活用を検討する。

○各大学における教育内容等の改善を促進するため、将来的には、エビデンスデータとして認証評価において活用を検討する。

【検討課題】

✓ 先行して実施している大学の学生調査との棲み分け

⇒国として実施する学生調査については、設問をシンプルかつ必要最低限なものに絞り込んだ上で、大学の学生調査とは別に実施するが、

・国の調査項目を大学の既存の調査項目に組み込み、国の調査項目の調査結果をデータ提出してもらうことも可とすべきではないか。

・もしくは、一定の条件を満たす場合は大学で実施しているもので代替可としてはどうか（その際、「一定の条件」をどのように考えるか。最低限、コンソーシアムなど複数大学間で共通要件の下に実施しているものを対象として、大学単独で実施しているものは除外すべきか。調査項目の類似性をどこまで求めるか。）

✓ 調査結果の取扱いについて、

・公表する場合の基準（回答数の必要最低規模 等）をどう考えるか。

・公表形式や公表事項をどう考えるか。

・大学進学希望者を始めとした社会や各大学が調査結果を活用しやすいような、システム設計をどう考えるか。

【試行調査（今年度実施）での取扱い（案）】

・国において全体の調査結果とともに、原則大学・学部ごとの集計結果（回答数・回答率を含む）を公表

公表基準（案）：学部単位において「回答数が 30 以上」かつ「回答率が 10%以上」に該当する場合に公表（基準に満たない場合はその旨を公表）

公表形式（案）：文部科学省・国立教育政策研究所のホームページ

公表事項（案）：大学名・学部名・回答者数・回答率のほか、調査項目ごとの回答割合・平均値（イメージは別添参照）

調査対象

全国の大学に在籍する全ての３年生（６年制の場合は４年生とする）

※原則として悉皆調査（全数調査）とする。

【検討課題】
- ✓対象学年（６年制の場合や編入生、外国人留学生、留年者、休学者の取扱い含む）
- ✓通信教育課程や夜間部の取扱い
- ✓【再掲】国の調査項目を大学の既存の調査項目に組み込み、国の調査項目の調査結果をデータ提出してもらうことも可とすべきではないか。もしくは、一定の条件を満たす場合は大学で実施しているもので代替可としてはどうか。

【試行調査（今年度実施）での取扱い（案）】

大学：全国の大学に対して参加の可否を問う事前調査を実施の上、予算の範囲内で試行調査対象大学を国において選定。

学年：３年生（６年制の場合は４年生）

※対象大学の悉皆調査（全数調査）

調査方法

インターネット（ＷＥＢ）調査

【検討課題】
- ✓結果の信頼性を確保する観点から、回答者が所属学生であることを担保する方法、二重回答防止の方法についてどう考えるか。
- ✓一般的にインターネット（ＷＥＢ）調査は、質問紙調査と比べて回答率が下がると考えられるが、回答率を上げるための工夫としてどのようなものが考えられるか。

【試行調査（今年度実施）での取扱い（案）】

インターネット（ＷＥＢ）調査

調査時期

既存調査と重複しないよう、今後検討が必要

【検討課題】
- ✓既存調査の実施時期としては 10～12 月が多くなっているが、学生や大学の負担感等を考慮し、適当な実施時期や実施方法として工夫できることはあるか。
- ✓調査実施サイクルは、３年に１回としてはどうか。（間の期間で短期大学生を対象とした調査の実施も検討。）

【試行調査（今年度実施）での取扱い（案）】
11～12 月メド（委託事業であるため、今年度中に成果物を受託事業者から文部科学省に納品する必要（どこまでの業務を受託事業者に委託するかについては今後検討））

実施体制

文部科学省と国立教育政策研究所による共同実施

調査項目

大学での授業や経験／学習時間／大学で受けた授業形態／大学教育で身に付けた知識や能力（詳細は別添参照）

期待される成果等

高校生・保護者：学生目線の情報を踏まえた進路選択が可能

社　会：学生目線からの大学教育の可視化された情報が取得可能・大学教育への理解促進

学　生：大学教育改善への参画・大学教育を振り返り、更なる学びへの意欲を促進・自大学の現状を知ることが可能

国　　：政策立案への活用

大　学：社会に対する説明責任を果たす・より良い教育の提供・学内ＩＲの活性化（学内既存調査の深化を含む）・認証評価においてエビデンスデータとして活用

調査項目（案）について

Ⅰ．あなたご自身のことについて

【1】大学名を選択してください。

※例えば大学ごとに回答ＷＥＢページのＵＲＬを変えることにより、大学名は選択しなくても良いようするなど、コストも含めて工夫を要検討。

【2】学部名を選択してください。

※選択方式にした場合、事前に対象大学の学部を把握する必要。最新の学部ではなく、対象学年の在籍学部を把握する必要があるため、各大学に調査への参加の可否を事前調査する時点で聴取。（夜間部、通信教育課程も選択肢として用意）

Ⅱ．大学での授業・学習等について

【3】これまでに受けた授業では、次の項目は、どれくらいありましたか。

それぞれの項目について、「①ほとんどなかった、②あまりなかった、③ある程度あった、④よくあった」から当てはまるものを選択してください。

項目	回答
1．授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれた	
2．理解がしやすいように教え方が工夫されていた	
3．教員以外の者（アシスタントなど）が配置されており、補助的な指導があった	
4．小テストやレポートなどの課題が出された	
5．適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却された	
6．グループワークやディスカッションの機会があった	
7．教員から意見を求められたり、質疑応答の機会があった	
8．主に英語で行われる授業（語学科目は除く）があった	

【4】大学に入ってから次のような経験はありましたか。また、その経験は有用でしたか。

それぞれの項目について、「①経験していない、②有用ではなかった、③有用だった、④非常に有用だった」から当てはまるものを選択してください。

項目	回答
1．大学での勉強の方法（スタディ・スキル）を学ぶ科目	
2．研究室やゼミでの少人数教育	
3．（授業以外で）教員に質問したり、勉強の仕方を相談する機会	
4．キャリアに関する科目、キャリアカウンセリング（就職や進学相談）	
5．インターンシップ（5日以上のもの）	
6．海外留学（3か月以上のもの）	
7．図書館やアクティブラーニングスペースを活用した学習	

【5】授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間について、当てはまる時間数を選択してください。

項目	授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間（単位：時間）						
	0 時間	1−5	6−10	11−15	16−20	21−30	31 時間以上
1. 授業（実験・実習含む）への出席	1	2	3	4	5	6	7
2. 予習・復習・課題など授業に関する学習	1	2	3	4	5	6	7
3. 授業以外の学習	1	2	3	4	5	6	7
4. 部活動/サークル活動	1	2	3	4	5	6	7
5. アルバイト/定職	1	2	3	4	5	6	7
6. 就職活動	1	2	3	4	5	6	7
7. 趣味/娯楽/交友	1	2	3	4	5	6	7

【6】これまで受けた授業の形態について、全体が10割になるようお答えください。
（足して10割になるように、おおよその割合をお答えください。）

大講義（出席者数が100人以上）	中講義（出席者数が50人以上100人未満）	小講義（出席者数が50人未満）	演習・ゼミ	実験・実習
割	割	割	割	割

【7】次の知識や能力を身に付けるために、大学教育は役に立っていると思いますか。
それぞれの項目について、「①役に立っていない、②あまり役に立っていない、③少し役に立っている、④とても役に立っている」から当てはまるものを選択してください。

項目	回答
1. 専門分野に関する知識・理解	
2. 将来の仕事に関連しうる知識・技能	
3. 文献・資料・データを収集・分析する力	
4. 論理的に文章を書く力	
5. 人に分かりやすく話す力	
6. 外国語の力	
7. 統計数理の知識・技能	
8. 問題を見つけ、解決方法を考える力	
9. 多様な人々と協働する力	
10. 幅広い知識、ものの見方	
11. 異なる文化に関する知識・理解	

【8】ここまでの設問への回答にどれくらいの時間が必要でしたか。
「①5分以内、②5分～10分以内、③10分以上」から当てはまるものを選択してください。
【試行調査時のみを想定】

【9】大学での学びについて、ご意見などがあれば自由に記載してください。
（自由記述：100 字以内）【試行調査時のみを想定】

公表イメージ（案）について

※あくまでも現時点の試行調査における公表イメージ案であり、試行調査実施までに変更はあり得ます。

※本格実施時には、利便性も考慮しつつ、システムから出力可能とすることを検討。

【文部科学省ホームページ】

全国学生調査2019（試行調査）

【参加大学一覧】
- ●●●大学　見たい大学をクリック！！
- □□□大学
- ▼▼▼大学

●●●大学

学部	回答数	回答率	問３　これまでに受けた授業では、次の項目はどれくらいあったか。								
			項目①：授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれた				項目②：理解がしやすいように教え方が工夫されていた				・・・
			ほとんどなかった	あまりなかった	ある程度あった	よくあった	ほとんどなかった	あまりなかった	ある程度あった	よくあった	
A学部	300	40%	10.0%	13.3%	26.7%	50.0%	3.3%	20.0%	26.7%	50.0%	
B学部	220	30%	13.6%	18.2%	36.4%	31.8%	2.3%	10.5%	40.9%	46.4%	
C学部	40	20%	0.0%	12.5%	50.0%	37.5%	10.0%	50.0%	25.0%	15.0%	
D学部	20	30%	回答数が公表基準未満のため非公表								

学部	回答数	回答率	問５　授業期間中の平均的な１週間（７日間）の生活時間							
			項目①：授業（実験・実習含む）への出席							・・・
			0時間	1-5時間	6-10時間	11-15時間	16-20時間	21-30時間	31時間以上	平均値
A学部	300	40%	10.0%	13.3%	26.7%	50.0%	3.3%	20.0%	26.7%	◆◆時間
B学部	220	30%	13.6%	18.2%	36.4%	31.8%	2.3%	10.5%	40.9%	◇◇時間
C学部	40	20%	0.0%	12.5%	50.0%	37.5%	10.0%	50.0%	25.0%	■■時間
D学部	20	30%	回答数が公表基準未満のため非公表							

学部	回答数	回答率	問６　これまでに受けた授業の形態				
			大講義（出席者数が100人以上）	中講義（出席者数が50人以上100人未満）	小講義（出席者数が50人未満）	演習・ゼミ	実験・実習
A学部	300	40%	10.0%	13.3%	26.7%	50.0%	3.3%
B学部	220	30%	13.6%	18.2%	36.4%	31.8%	2.3%
C学部	40	20%	0.0%	12.5%	50.0%	37.5%	10.0%
D学部	20	30%	回答数が公表基準未満のため非公表				

学部	回答数	回答率	問７　次の知識や能力を身に付けるために、大学教育は役に立っていると思いますか。								
			項目①：専門分野に関する知識・理解				項目②：将来の仕事に関連しうる知識・技能				・・・・
			役に立っていない	あまり役に立っていない	少し役に立っている	とても役に立っている	役に立っていない	あまり役に立っていない	少し役に立っている	とても役に立っている	
A学部	300	40%	10.0%	13.3%	26.7%	50.0%	3.3%	20.0%	26.7%	50.0%	
B学部	220	30%	13.6%	18.2%	36.4%	31.8%	2.3%	10.5%	40.9%	46.4%	
C学部	40	20%	0.0%	12.5%	50.0%	37.5%	10.0%	50.0%	25.0%	15.0%	
D学部	20	30%	回答数が公表基準未満のため非公表								

全国学生調査2019

学生向けチラシ イメージ

みなさんの声を高校生・社会に届けてください。

文部科学省　NIER

学生みなさんの大学での学びの状況を教えてください。

みなさん一人一人の回答が我が国の大学教育を良くします。

調査目的

- 学びの主体である学生の目線から大学の教育力の発揮の実態を把握します。
- 高校生などが理解しやすいよう、調査結果を大学・学部毎に公表します。
- 各大学は、調査結果を踏まえ自ら教育改善を行い、より良い教育を目指します。
- 学生の目線から大学教育の実態を把握することで、国における今後の**政策立案の際のエビデンスとしても活用**します。

－学生から見た大学教育の姿を可視化する大規模調査は**初の試み**－

大学教育の主役は学生 → **学生の声が大学を変える** → **未来で学ぶ後輩のため**

学部３年生対象！

アンケート回答期間　**令和元年　○／○（○）⇒　○／○（○）**

調査方法

- スマートフォンやPCからURLやQRコードにアクセスしてください。
  （ＵＲＬ：・・・・・）
- 質問は３８問あります。１０分程度で回答できます。
- 質問内容は裏面にあります。回答時に参考にしてください。

QRコード

（注釈）
- 調査目的の範囲を超えて使用したり、本人の同意を得ずに第三者に対して提供することはありません。
- 回答内容について個人を特定できる形式で公表することは決してありません。また、個人の回答内容によってその個人が不利益を受けることは一切ありません。

※裏面を参考に学生調査へ回答をお願いします！

質問項目

回答の際は、この用紙を見ながら回答すると効率的です！

文部科学省　NIER

基本情報

問１　大学名：大学毎のURL・QRコードのため自動入力されます。
問２　学部名：あなたの在籍する学部を選択してください。

大学での授業・学習等について

問３　これまでに受けた授業では、次の項目はどれくらいありましたか。それぞれの項目について当てはまるものを選択してください。

項目	ほとんどなかった	あまりなかった	ある程度あった	よくあった
授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれた。	1	2	3	4
理解がしやすいように教え方が工夫されていた。	1	2	3	4
教員以外の者（アシスタントなど）が配置されており、補助的な指導があった。	1	2	3	4
小テストやレポートなどの課題が出された。	1	2	3	4
適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却された。	1	2	3	4
グループワークやディスカッションの機会があった。	1	2	3	4
教員から意見を求められたり、質疑応答の機会があった。	1	2	3	4
主に英語で行われる授業（語学科目は除く）があった。	1	2	3	4

問４　大学に入ってから次のような経験はありましたか、その経験は有用でしたか。それぞれの項目について当てはまるものを選択してください。

項目	経験していない	有用ではなかった	有用だった	非常に有用だった
大学での勉強の方法（スタディ・スキル）を学ぶ科目	1	2	3	4
研究室やゼミでの少人数教育	1	2	3	4
（授業以外で）教員に質問したり、勉強の仕方を相談する機会	1	2	3	4
キャリアに関する科目、キャリアカウンセリング（就職や進学相談）	1	2	3	4
インターンシップ（5日以上のもの）	1	2	3	4
海外留学（3か月以上のもの）	1	2	3	4
図書館やアクティブラーニングスペースを活用した学習	1	2	3	4

問５　授業期間中の平均的な１週間（７日間）の生活時間について、当てはまる時間数を選択してください。

項目	0時間	1-5時間	6-10時間	11-15時間	16-20時間	21-30時間	31時間以上
授業（実験・実習含む）への出席	1	2	3	4	5	6	7
予習・復習・課題など授業に関する学習	1	2	3	4	5	6	7
授業以外の学習	1	2	3	4	5	6	7
部活動/サークル活動	1	2	3	4	5	6	7
アルバイト/定職	1	2	3	4	5	6	7
就職活動	1	2	3	4	5	6	7
趣味/娯楽/交友	1	2	3	4	5	6	7

スマホでGo！
（回答は１０分）

問６　これまでに受けた授業の形態について、全体が10割（足して10割）になるようお答えください。

大講義（出席者数が100人以上）	中講義（出席者数が50以上100人未満）	小講義（出席者数が50人未満）	演習・ゼミ	実験・実習
割	割	割	割	割

問７　次の知識や能力を身に付けるために、大学教育は役に立っていると思いますか。それぞれの項目について当てはまるものを選択してください。

項目	役に立っていない	あまり役に立っていない	少し役に立っている	とても役に立っている
専門分野に関する知識・理解	1	2	3	4
将来の仕事に関連しうる知識・技能	1	2	3	4
文献・資料・データを収集・分析する力	1	2	3	4
論理的に文章を書く力	1	2	3	4
人に分かりやすく話す力	1	2	3	4
外国語の力	1	2	3	4
統計数理の知識・技能	1	2	3	4
問題を見つけ、解決方法を考える力	1	2	3	4
多様な人々と協働する力	1	2	3	4
幅広い知識、ものの見方	1	2	3	4
異なる文化に関する知識・理解	1	2	3	4

問８　ここまでの設問への回答にどのくらいの時間が必要でしたか。「①５分以内、②５分～１０分以内、③１０分以上」から当てはまるものを選択してください。

問９　大学での学びについて、ご意見などがあれば自由に記載してください。（自由記述：100字以内）

ご協力ありがとうございました。

【担当】
文部科学省高等教育局高等教育企画課高等教育政策室
国立教育政策研究所高等教育研究部